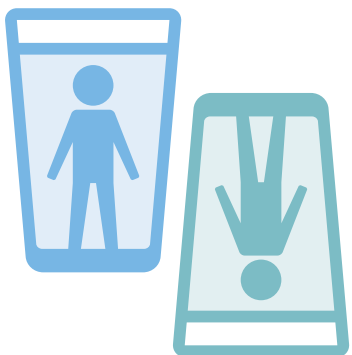


価値「1」

価値とは何だろっ？

？
じっくり考えてみよう

各問の①、②、③の空欄に、選択肢a、b、cから
適当なものを入れなさい。



Q 1

- 日本に住む私たちにとって、コップ一杯の水は「①」です。
 - 砂漠を旅する人にとって、コップ一杯の水は「②」です。
- a (ふつうのもの)
b (貴重なもの)

Q 2

- 野球部がいま練習で使っている野球ボールは「①」です。
 - その野球ボールの一個に、有名なプロ野球選手がサインをしてくれました。
- そのボールは「②」です。

- a (とんでもない宝もの)
b (なんでもないもの)

Q 3

- 彼女は大人になって、実は育ての親が実の親でないことを知った。そして彼女は、実の親を探す旅に出た。
- どうしても「①」を知りたかったのだ。
- F氏が勇気をもって一人抗議したことは、賞賛に値する。
- その行動には「②」がある。
- 人はいくつになっても、若さを欲する。
- みずみずしい若さには「③」があるからだ。

- a (正しい)
b (美しい)
c (真実)



Q 4

ガソリンで走る自動車は、

長い距離を快適に移動でき、物を運べるという

①「_____」を与えてくれる。

その一方で、自動車からの排出ガスは地球環境や人体に

②「_____」を与えている。

a (a) 害

b (b) 便益

Q 5

山のゴミ拾いボランティアの参加募集があった。

幸介(こうすけ)は、正直、半日かけてのゴミ拾いは

①「_____」ので、あまり気が進まない。

でも、町の人や登山の人がよろこんでくれる顔を想像す

ると、②「_____」ので、参加することにした。

a (a) うれしそう

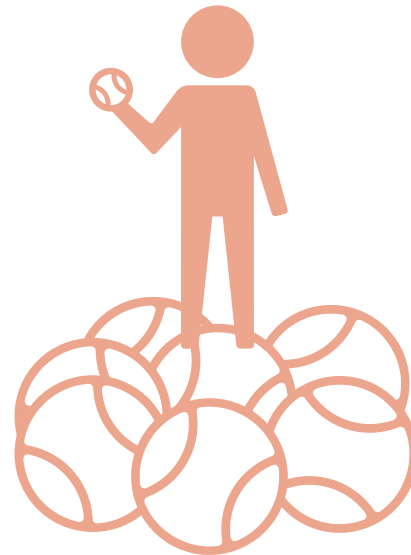
b (b) 気持ちがいい

*問題の答えは文末にあります

「価値」とはなんだろう？——それは簡単に
言えば、人がものごとに対して感じる「よい」
性質のことだ。「よい」というのは、好ましい、
優れている、役に立つ、得になる、ほんとう
である、正しい、美しい、などである。わた
したちは、ものごとのなかにこういった「よ
い」性質を見出すとき、それには「価値がある」
と言ったり、また、その度合いに応じて「価
値が高い／低い」と言ったりする。

たとえば、コップ一杯の水はわたしたちのどの渴きを癒やしてくれるという「よい」性質がある。だから水には価値がある。ただ、〈Q1〉でみるように、同じコップ一杯の水でも日本の住人と砂漠の旅人とは価値の度合いが違う。日本では水の価値は低い、砂漠では価値が高い。その理由は、コップ一杯の水の役に立つ度合いが、砂漠のほうが高いからだ。加えて、砂漠では水が少ないことも水の価値を押し上げている。

〈Q2〉において、同じ野球ボールでも、サイン入りは価値が高くなる。なぜなら、「有名選手がサインした」というみながあこがれる性質が加わったからである。そしてそのボールは多くの人々がほしがるので、ひよっとすると高く売れて得をするかもしれない、という理由もある。



〈Q3〉でみるように、真実や正しさ、美しさは価値である。そして人はそれらを求める。これらはとくに「真・善・美」（しん・ぜん・び）と呼ばれ、価値の代表として知られている。

なぜ彼女は、旅に出るのか。それは、自分を生んだ親についてほんとうのことを知りたいからだ。いまだ自分が知らない真実には価値があり、それを求めずにはいられないのだ。また、F氏の行動がなぜ賞賛されるにふさわしいのか。それは、その行動が正しさという価値を含んでいるからである。また、なぜ人は若さを欲するのか。それは、若さが持っているエネルギーが美しさに通じていて、人はそれを価値とみるからだ。

このように、人はものごとのなかに「よい」性質を見出すとき、それを価値と感じ、価値を求めようとする。逆に、ものごとのなかに「わるい」性質を見出したとき、それは「反価値」としてきらったり、避けようとしたりする。「わるい」性質とは、好ましくない、劣っている、害を及ぼす、損になる、偽りである、悪である、醜い、などだ。

〈Q4〉をみてみよう。ガソリン車は価値のうえで両面性を持っている。つまり、移動や運搬の道具としてはおおいに便益があつて価値あるものだ。ところが、排気ガスによって環境に害を与えるという面では、反価値のものである。〈Q5〉も価値と反価値の問題だ。半日のゴミ拾いボランティア活動について、幸介はしんどいという反価値と、人のためになるという価値の両方を感じている。幸介は心のかたで、価値と反価値をてんびんにかけて、いろいろと悩む。それで最終的に人によるこんでもらえるという価値のほうが大きいと思つたので、参加する決意をしたわけである。



人間はなにかものごとくに接するとき、知らずのうちに価値を考えている。たとえば、「今度、保健委員を任された(その役目を引き受けることはどれほど価値のあることだろうか)」。 「店でA製品とB製品、二つの物が並んでいる(どっちの価値が高くてお買い得だろう)」。 「クラスで目立ちたがり屋のSがなにやら得意げに話をしている(あれは信用できないな。聞く価値のないウソの話だ)」。 「一風変わった曲を歌うミュージシャンが出てきたぞ(それは買って聴くほどの価値のある曲かな)」……など。

人間は基本的に、自分に好ましいこと、利益になること、真理であること、正しいこと、美しいことに引かれて行動するようになっている。おそらくそれらが自分の命を守る作用があることを生命全体で知っているからだろう。

(問題の答え)

Q1-① : a Q1-② : b

Q2-① : b Q2-② : a

Q3-① : c Q3-② : a Q3-③ : b

Q4-① : b Q4-② : a

Q5-① : a Q5-② : b

14歳から
大人まで

生きることの根っこを考える

ふだんの[🍎]哲学

Philosophy for Everyday Living

『ふだんの哲学』は、中学生から大人まで読んでいただける思索のための小話集です。

学問的な哲学ではなく、ふだのできごとのなかからふかく考える種を見つけ、

ふだんに（不断に＝絶え間なく）心を健やかにしていく内容をめざしています。

ほかにもシリーズ記事がプロジェクトサイトにありますので、是非のぞいてみてください。

*本記事は営利を目的としない教育用途であれば、個人や学校・各種グループにおいてご自由にお使いください。

「ふだんの哲学」ウェブサイト

<http://careerscape.lekumo.biz/tetsugaku/>

村山 昇 (info@careerportrait.jp)

サカイシヤスシ (info@lantadesign.com)